

本多元国会議員の当団体への発言を受けての緊急声明

一般社団法人Spring

先だって「50代が14歳と恋愛し同意があった場合に罰せられるのはおかしい」といった旨の発言をしたと報じられた本多平直氏が、議員を辞職しました。一部報道によれば、元議員は、性暴力被害当事者等の団体である一般社団法人Springについても言及したとされており、報道の文面を読む限り、その内容は当団体への偏見と誤解に満ちたものでした。私たち一般社団法人Springは、この機にあらためて団体の活動と立場について、緊急声明を発表します。なお、以下の文面は発言をした元議員の責任を問うものではありません。私たちは、その背景にある、日本社会に一部根強く存在する性暴力や性暴力被害当事者への偏見を無くしたいと考えています。

1. Springは、性暴力被害当事者の実態および調査に基づき、議論を重ねてきた団体です。

元議員の発言のなかに、「イデオロギーから入っている、インチキ支援団体」といったものがあつたと報じられていますが、Springはイデオロギー団体ではなく、被害の実態や様々な調査結果をもとに、議論を重ねてきた団体です。様々な先行研究を調べ、2019年5月には研究者らの質的調査研究に協力し、2020年には5,899件の性被害当事者から得られた性暴力被害の実態に関する調査結果を発表しています。

私たちは当該の元議員と一度も会ったことがなく、ヒアリングを受けたこともありません。今回報道された発言は、一方的な思い込みに基づく、誤った認識からなされた明らかな中傷であり、被害当事者を傷つけるものです。私たちは二次加害と受け止めています。このような、性暴力被害当事者が声を上げた際に「インチキだ」「嘘をついている」などと言われる二次加害は、いたるところで繰り返され、多くの被害当事者をさらに傷つけ、言葉を奪いつづけています。私たちは、性暴力被害当事者への二次加害を起こさせない社会を求めます。

2. Springは女性だけの団体ではなく、男性も所属し、性別を問わず性暴力被害をなくすために活動している団体です。

元議員の発言の中に、「スプリングとか、もう、論外」「男は敵、男性差別」といったものあつたと報じられていますが、Springには男性被害当事者も所属しており、性別をこえて被害が被害として認められ、性加害が犯罪として裁かれる社会にするために活動しています。元議員の発言は、男性と女性を分断し、性暴力の問題を男女の争いのように矮小化するものです。この発言に私たちはとても傷つきました。

Springが行った性暴力被害の実態調査では、5,899件の回答の中には、男性やトランスジェンダー、Xジェンダー・ノンバイナリーなど様々な性別・性自認の方からの回答もありました(* 図1)。性暴力は、性を問わず起きる暴力です。私たちは、性別、性自認、性的指向に関わらず、あらゆる性加害、性被害のない社会を求めます。

3. なぜ私たちが性交同意年齢の引き上げをもとめているか。

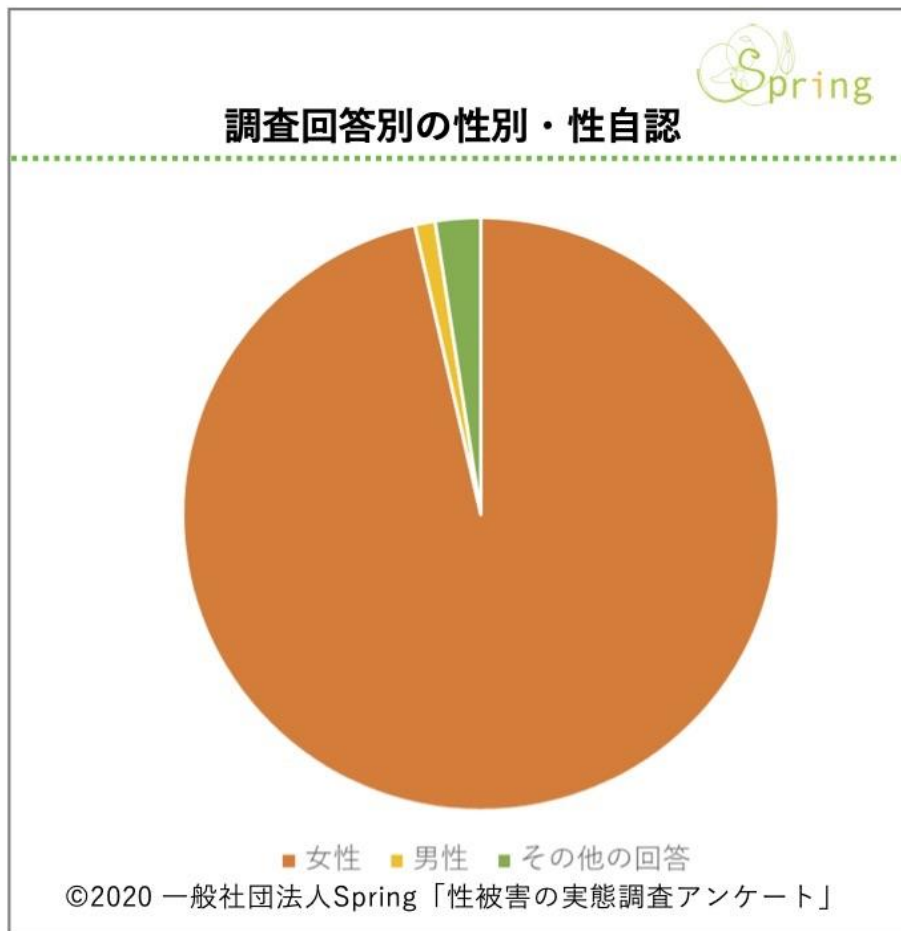
今回、成人が年齢差のある未成年と性交することの問題点が大きく問われました。未成年、特に16歳未満の子どもたちは心身共に成長途中で、成人と比較した時に同等の同意の能力があると判断することは難しいと私たちは考えています。イギリスでは、同意とは、自由と能力を前提とした選択であると考えられており、年齢差は自由を阻害し、低年齢であることは能力を阻害します(* 図2)。真の同意のない性交は、その人の心身に長期にわたる深刻な影響を与えます。13歳以上の子どもたちの被害において、被害当事者たちが深く傷ついている一方で、その多くが

「同意した」とみなされて、犯罪として認識されない現実があります。そのため私たちは、性交同意年齢を16歳未満に引き上げること、特に年齢差のある成人からの16歳未満への性行為に対する規定を作ることを求めます。

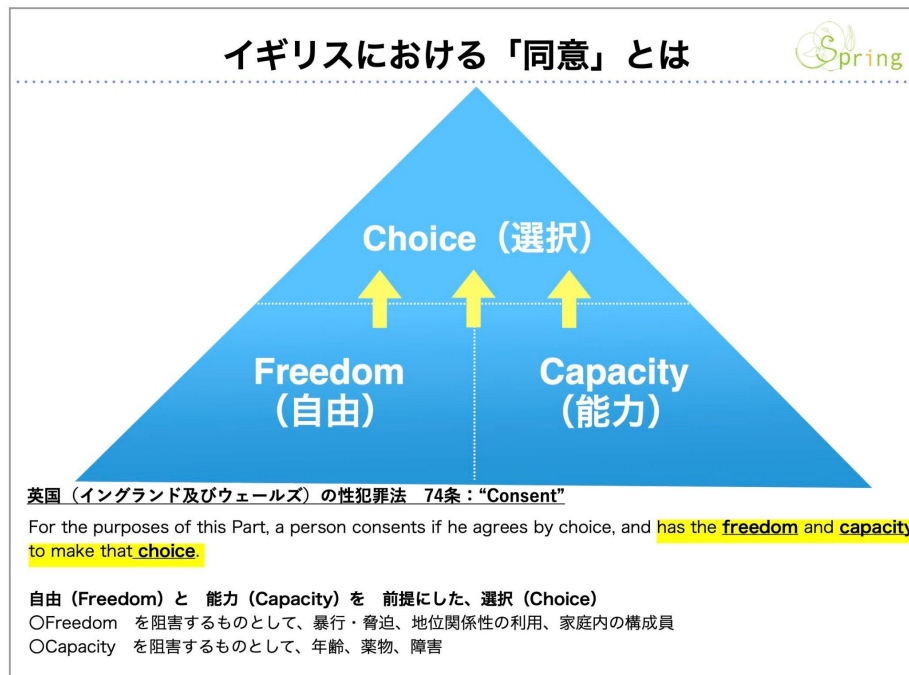
近年、成人から未成年の性交に関し処罰をすることは、先進国の潮流となっています。

なお、Springが行った性暴力被害の実態調査では、性交について知識を得た年齢は平均13.46歳(SD=3.31)である一方、性交に伴うリスクも認識した上で、相手と同等の関係で性交に同意できる年齢については平均19.4歳(SD=3.50)という回答が得られました(* 図3)。なお、私たちの調査結果によると、被害のうち3分の2程度が未成年のあいだに発生しています(* 図4)。

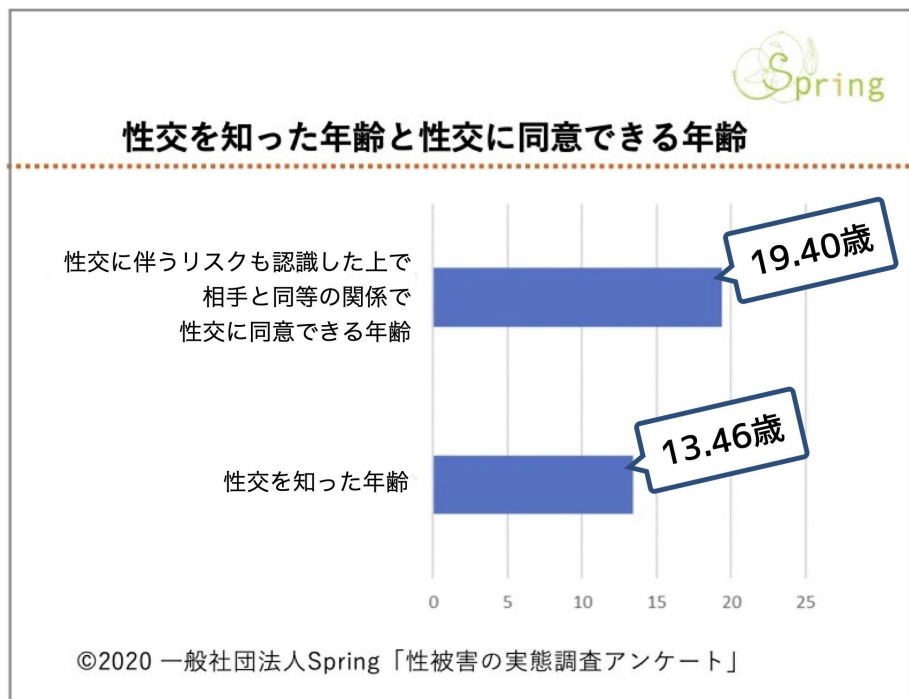
* 図1



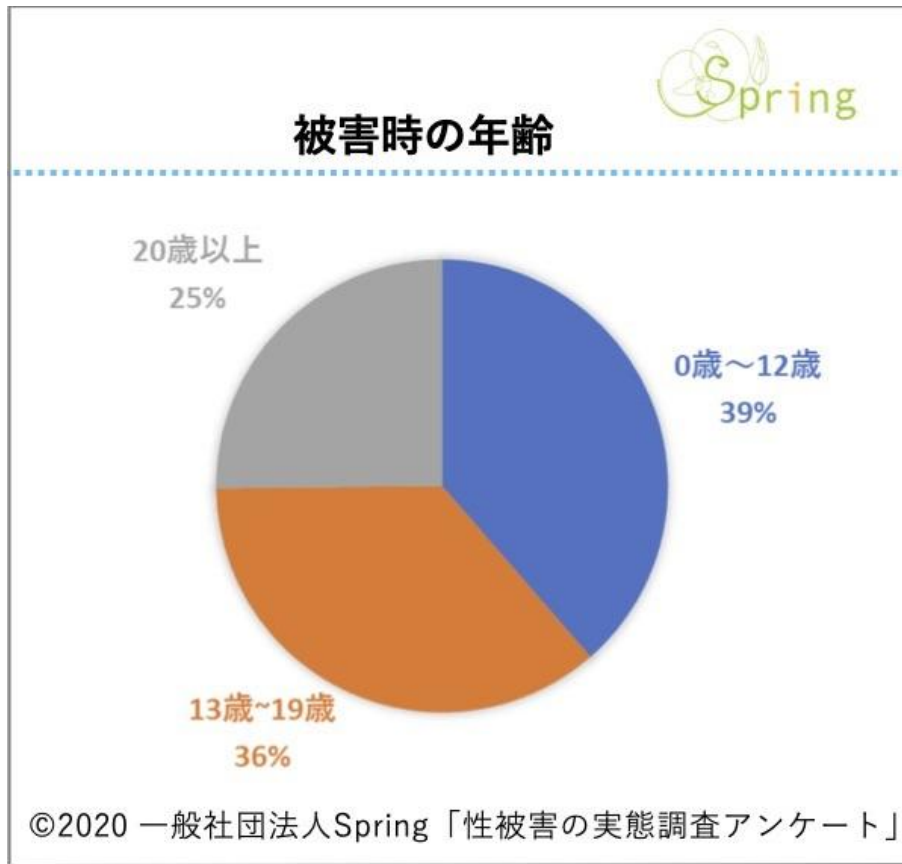
* 図2



* 図3



* 図4



2021年8月2日